



## 私に倍する恵みをもって、 神様はめぐみを守っている

横田早紀江

皆様、こんにちは。本当に長い、考えると気絶しそうになるくらい長い、未解決の拉致問題ですが、あの新潟でめぐみがなくなったのは、11月15日の夕方でした。悲しくて、悔しくて、もう海にはまって死んだほうがいいと何度思ったことでしょうか。最初の20年はまったく何も見えなかったのが、北朝鮮による拉致とわかって、救う会が立ち上がり、家族会も共に生まれて、それからはいろんな運動を通して拉致問題をみなさんにお伝えしてきました。ほんとに私は普通の家庭に育って、何の知識もなく、何もできない者なのに、どうしてこんな大変なことに関わってしまったのか。今もそうですけど、まるでドラマの中にいるような気持ちです。ここまで導かれてきたのは、神様のみわざでしかないと思わされています。

45年近い年月がたっても、まだ子どもの姿は見えてきませんし、どうなっているのかもわかりません。さまざまなところからもたらされる情報を聞いているぐらいで、それがどこまで本当なのかもわかりません。しかし私は、「めぐみちゃんは元気に生きている」と希望をもち、

こんなおばあさんになるまで支えられ、皆様に助けをいただきながら生かされています。こんな者でさえ神様がかわいがってくださるのであれば、めぐみちゃん

はもっと優しい子だったから、私に倍するほどの恵みをもって神様はめぐみを守り、抱きかかえてくださっているはずだという平安な気持ちがあります。本当に背後にあるお祈りがどんなに大きなものか。いい時だけ「ありがとうございます」というような神様ではなくて、聖霊によって私たちのたましいを造り変えられるお方だということを実感しています。

11月13日に国民大集会が開かれ、岸田総理が横に座っていらっしゃるの、とにかく一生懸命言わなければならないと、話させていただきました。先日家族会で岸田総理にお会いした時、「こんなにたくさんの大切な国民の生命が、こんなに長いこととらわれているのがわかっていながらも、何代もの総理が何もできなかった。こんなみっともないこと、日本は笑われます。よその国がばかにしますよ」と言い



ましたが、今回も、「誰かが本気でやっていたかないと拉致問題だけでなく、他の面でも軽く見られて、日本には何でもできると思われる。いつか大変なことが起きるかもしれないことを本当に覚えてください」というようなことを話しました。「お願いします」などという言い方ではだめだと思って、だんだん恐いおばあさんになってしまい、総理が横にいるのに言っているのかなと思いつつ、それでもいいと…。もうあと、どのくらいこのようにやれるのかなと、近頃よく考えます。みなさんがお元気な間に必ず「良かった!」と言っていたかなくては困りますので、政治家の方にしっかりこのことを覚えていただきたいです。日本国中がじっと見つめていますから。マスコミの方々にはいつも助けられています。ご自分のお子様方の時代がくるということを考え、これからも報道していただくようお願いします。

(2021年11月18日第208回祈り会)